

抑制きいたた吽形像

雨引観音仁王像を修復②

桜川市の雨引山薬法寺(通称・雨引観音)の金剛力士像(仁王像)の修復をはじめ、奈良・桜井市の聖林寺の十一面観音立像模刻(複製作成)に当たった東京芸術大の試みが、「古典彫刻技法大全」(求龍堂、3880円)にまとめられ刊行された。監修に当たった藪内佐斗司さん(当時東京芸術大教授、現奈良国立芸術館長)は、雨引観音の仁王像に「慶派の仏師の夫力が遺憾なく発揮されている」と指摘。同寺とそっくりの仁王像が関東一円に広がったと推測。本県の仏教美術の水準の高さについても絶賛する。



奈良県立長 藪内佐斗司さんに聞く



●吽形像修復後の部分写真。抑制のきいた表現が、誇張を控えて引き締まった手足は、奈良・興福寺の仁王像にも通じているという●吽形像修復前写真

慶派仏師の実力、存分に発揮

「この仁王像の特徴を、改めて表現していただくようなものでしょうか。慶派の誰の作品かまで推測していますか。」

「この御像をひと目見て感じるのは、そのプロポーションの良さです。仁王像というのは動きの激しい像であるためか、時代が下るにつれてどんどん誇張された表現になっていきます。運慶の作として有名な東大寺南大門の仁王像なども、もちろん誇張された表現ではありませんが、どこか抑制のきいた造形で、ただ筋肉を大げさに作ったようなものではありません。薬法寺像の、特に吽形にはそのような抑制のきいた、冷静な観察に基づいた表現があると思います。」

後補筆蹟を除去した状態を初めて見た時に思ったのは、「興福寺の仁王像に似ているな」ということです。興福寺の仁王像は、運慶と同世代の春日定慶という仏師のものと思われるのですが、誇張を控えて引き締まった手足は、薬法寺像の雰囲気と共通するところがあります。」

東寺仁王像に肩並べ

「現在、茨城県の文化財保護審議委員をしている瀬谷貴之さんのご指摘なのですが、薬法寺

上州和歌山 坂東川三廻順礼同道二人
永正十年七月四日

仏像の中から出てきた巡礼札に書かれた文字

像のポーズはかつて京都府・東寺南大門にあった仁王像のそれを写したものであると考えられます。残念ながら、東寺仁王像は明治時代に焼失してしまったのですが、それまでは東大寺像の仁王像を超える運慶の代表作として知られていたようです。薬法寺像は、この「東寺南大門様式」を受け継ぐ作例として、東日本最古級のものであり、慶派仏師の夫力が遺憾なく発揮されている名作であるといえるでしょう。」

作者については、はっきりとしたことは分かりませんが、想像の域を超えるものではないのですが、中央からやってきた慶派仏師が吽形像を、地元の仏師が阿形像を担当したのではないのでしょうか。」

茨城県には、筑波山を中心に素晴らしい仁王像がたくさん残っています。いずれも薬法寺像のものとよく似ており、薬法寺像をきっかけに、これらの仁王像が関東一円に広がっていったのではないかと考えています。それほど薬法寺仁王像というのは重要な存在なのです。」

「また、像内から発見された室町時代の納入品も、当時の茨城県の様相を語る極めて重要なものです。最も目を引くのは「修理銘札」と「巡礼札」です。修理銘札には、おそろしく享徳の乱を指している戦乱のために軍勢が寺にも押し寄せ、仁王像に関する記録ごと燃えてしまった、とあります。また、永正の即興を指すであろう「三年キキ」のために奥州・坂東・京に至るまで多くの人々が命を落としたことなどが記されています。」

聖林寺十一面観音

「古典彫刻技法大全」は、奈良県桜井市の聖林寺の十一面観音なども取り上げていますね。仏像を扱う書籍は多いものの、創作の技術的側面にこれほど踏み込んだ本は珍しい。」

「仏像の修復や模刻制作を行うことで、当時の仏師がどのようにして作ったのか、その背景にはどんな事情があったのか、などいろいろなことが見えてきます。本の表紙が仏像のレントゲン写真ですので、一見するとミニアックな内容に見えるかもしれませんが、これまでにあまりなかった「仏像の見方」

を感じていただけたらと思います。」

天心に始まる修復

「関東や茨城県の仏像に関して、ほかに評価できる点などを紹介していただけますか？文化財の保存修復を立ち上げた岡倉天心は、日本美術院を北茨城市五浦に移転したことをきっかけに、茨城県民にもなじみ深い存在です。今後の研究室の活動への抱負も込めてお話しください。」

「ご指摘の通り、茨城県と岡倉天心、文化財の保存修復、そして東京芸術大学は切っても切れない関係にあります。岡倉天心が立ち上げた『日本美術院』の第二部が、現在の『美術院国宝修理所』であり、そのスタッフは東京芸大の新納忠之介先生でした。東京芸大で今も行われている文化財修復は、岡倉天心先生の仕事の延長線上にあるものです。」

茨城県は昨年度、都道府県魅力度ランキングで最下位だったと聞いています。これはとてもない思いで、特に仏教文化や仏像においてこんなにも豊かな土地はなかなかありません。私が教授を務めていた保存修復彫刻研究室でも、たくさんのお像を修理させていただきましたが、その多くを茨城県の御像が占めています。地元の貴重な文化財への理解は、これからますます深まるといいでしょう。」

私は今春をもって東京芸大を定年退職しましたが、岡倉天心先生からずっと続いてきた保存修復彫刻研究室は、これからも素晴らしい成果を上げてくれると期待しています。」



藪内佐斗司さん(福島県富津地方で徳元した慧日寺法師如来と)